

北海道アウトドアガイド資格保有者に調査票を送付し、回答があった分について、次のとおり取りまとめた。

I 北海道アウトドア資格制度に関するアンケート調査

1 調査概要

(1) 調査目的

アウトドアガイド資格を有する方の現状を把握し、今後の観光施策への活用を図るとともに、アウトドア資格制度が持続的に発展していくよう見直していくための基礎資料とするため。

(2) 調査対象者

平成27年12月1日現在のアウトドア資格保有者 385人

(3) アンケート回収率

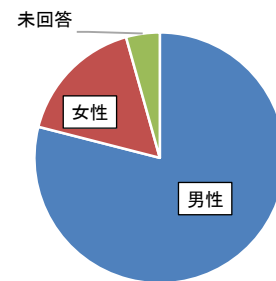
138(回答数) / 385(調査対象数) = 35.8%

2 調査結果

1 あなたご自身のことについて伺います。

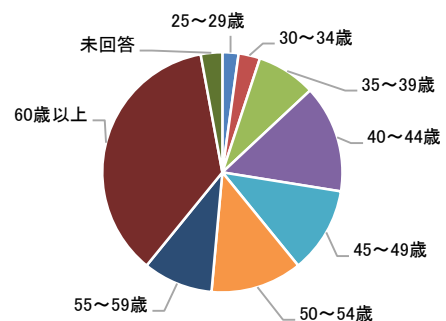
【質問1】 あなたの性別はどちらですか。

区 分	回答数	比率
男性	109	79%
女性	23	17%
未回答	6	4%
計	138	100%



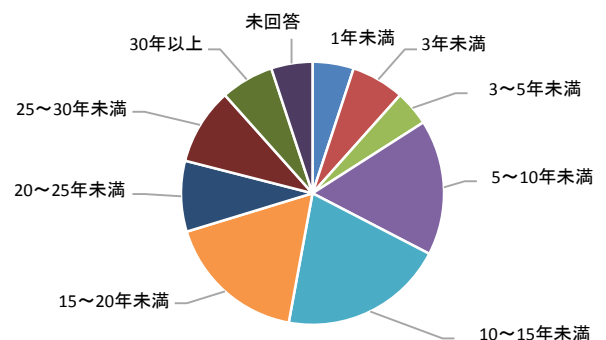
【質問2】 あなたの年齢はおいくつですか。

区 分	回答数	比率
20歳未満	0	0%
20～24歳	0	0%
25～29歳	3	2%
30～34歳	4	3%
35～39歳	11	8%
40～44歳	20	14%
45～49歳	16	12%
50～54歳	17	12%
55～59歳	13	9%
60歳以上	50	36%
未回答	4	3%
計	138	100%



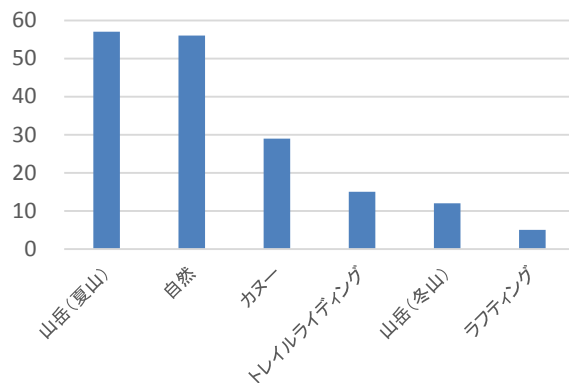
【質問3】 あなたのアウトドア体験のガイド歴は何年ですか。

区 分	回答数	比率
1年未満	7	5%
3年未満	9	7%
3～5年未満	6	4%
5～10年未満	23	17%
10～15年未満	28	20%
15～20年未満	24	17%
20～25年未満	12	9%
25～30年未満	13	9%
30年以上	9	7%
未回答	7	5%
計	138	100%



【質問4】 あなたが取得している北海道アウトドアガイド資格の分野は何ですか。(複数回答可)

区 分	回答数	比率
山岳(夏山)	57	33%
自然	56	32%
カヌー	29	17%
トレイルライディング	15	9%
山岳(冬山)	12	7%
ラフティング	5	3%
未回答	0	0%
計	174	100%



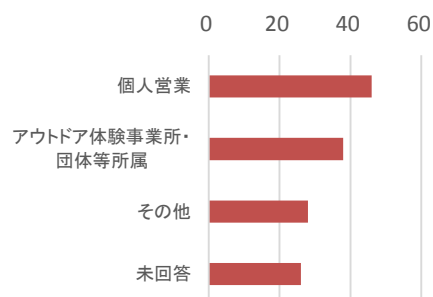
【質問5】 北海道アウトドアガイド資格を取得している分野以外で、あなたがガイドを行っているアウトドア体験メニューについて記入してください。

体験メニュー	回答数	体験メニュー	回答数
スノーシュー	42	ミーカヤック	1
自然	24	山岳スキー	1
釣り	8	農業体験	1
カヌー	8	牧場体験	1
MTB	4	フラワーウォッチング	1
熱気球	4	流水ウォーク	1
アウトドアクッキング	4	SUP	1
ハイキング(夏冬)	4	フットスパガイド	1
登山	4	スキーガイド	1
クロスカントリースキー	3	ネイチャーゲーム	1
ノルディックウォーキング	2	森林管理	1
キャンプ	2	動植物観察	1
スターウォッチング	2	小中校生の遠足、登山のお手伝い	1
バードウォッチング	2	スキー&スノーボード	1
BCガイド	2	エアボード	1
歩くスキー	2	ネイチャースキー	1
ツリーイング(ロープを使った木登り)	2	まち歩き	1
トレッキング	2	森あるき	1
ハンティング	2	トレイルランニング	1
ヨット	2	夏山	1
冬山	2	鮭水揚げガイド	1
山岳(冬山)	1	各種インフォメーション等文化講座講師	1
林業体験	1	野外学校	1
犬ぞり	1	木を見る会	1
アイスクライミング	1	ロッククライミング	1
フリークライミング	1	野外レク	1

【質問6】 あなたのアウトドア体験ガイド業の就業形態等についてお伺いします。

(1) あなたのアウトドア体験ガイド業の就業形態は、次のうちどれに該当しますか。(〇は1つだけ)

区 分	回答数	比率
個人営業	46	33%
アウトドア体験事業所・団体等所属	38	28%
その他	28	20%
未回答	26	19%
計	138	100%



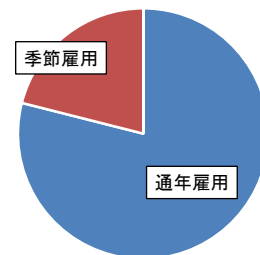
【その他の内訳】

内 容	回答数
ボランティアガイド	3
就業無し	3
補助・サブガイド	1
任意団体	1
仲間と共営	1
団体・個人	1
趣味で仲間とガイドを実施	1
自然環境の保全・育成の活動を行うNPO法人	1
町営	1
博物館業務	1
ほぼ休業状態	1
依頼された時のみガイドを実施	1
観光会社	1
個人ガイド	1
未回答	10
計	28

(2) (1)で「アウトドア体験事業所・団体等所属」と回答された方に伺います。

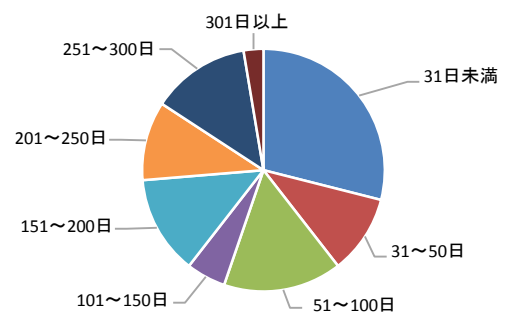
(2-1) あなたの雇用形態は、次のうちどちらに該当しますか。

区 分	回答数	比率
通年雇用	30	79%
季節雇用	8	21%
未回答	0	0%
計	38	100%



(2-2) あなたのアウトドア体験ガイド業における年間の稼働日数について記入してください。

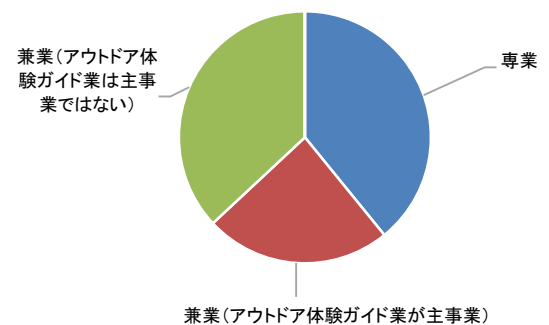
区 分	回答数	比率
31日未満	11	29%
31～50日	4	11%
51～100日	6	16%
101～150日	2	5%
151～200日	5	13%
201～250日	4	11%
251～300日	5	13%
301日以上	1	3%
未回答	0	0%
計	38	100%



(3) (1)で「個人営業」と回答された方に伺います。

(3-1) あなたの営業形態は、次のうちどれに該当しますか。

区 分	回答数	比率
① 専業	18	39%
② 兼業(アウトドア体験ガイド業が主事業)	11	24%
③ 兼業(アウトドア体験ガイド業は主事業ではない)	17	37%
未回答	0	0%
計	46	100%

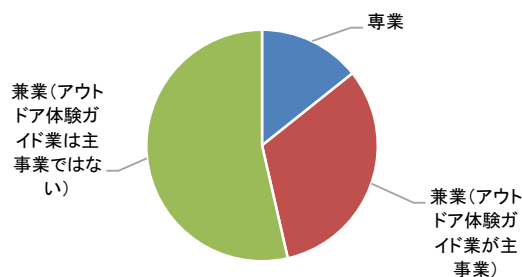


(3-2) 本業又は副業を記入してください。
 (兼業の場合((3-1)で②又は③と回答された方)のみお答え下さい)

本業又は副業	回答数
団体職員	3
会社員	2
建設業	2
年金	1
農家手伝い	1
私立学校	1
スキーインストラクター	1
登山地図調査執筆、地域の動物情報センター	1
福祉と介護	1
農作業の受託	1
乗馬生産、乗馬預り	1
インテリアコーディネーター	1
介護事業	1
食品工場パート	1
自然環境に係る講師、調査	1
カーショップ、スクール、造船業	1
飲食店 専務	1
馬の販売	1
他業者のアルバイト	1
宿泊業	1
特別公務員	1
観光関連会社	1
フリーで活動、クライアントが来た時のみ活動	1
未回答	1
計	28

(3-3) あなたが今後目指している営業形態は、次のうちどれに該当しますか。
 (兼業の場合((3-1)で②又は③と回答された方)のみお答え下さい)

区 分	回答数	比率
専業	4	14%
兼業(アウトドア体験ガイド業が主事業)	9	32%
兼業(アウトドア体験ガイド業は主事業ではない)	15	54%
未回答	0	0%
計	28	100%

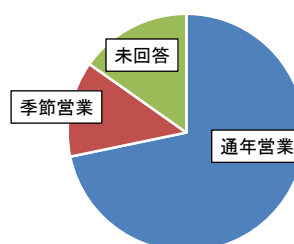


(3-4) (3-3)で「専業」と回答された方に伺います。
 専業を目指すにあたって、課題と思われることは何ですか。

区 分	回答数	比率
冬場のメニューの充実	1	25%
営業、スタッフ増員、安全管理	1	25%
法人化と資金力	1	25%
未回答	1	25%
計	4	100%

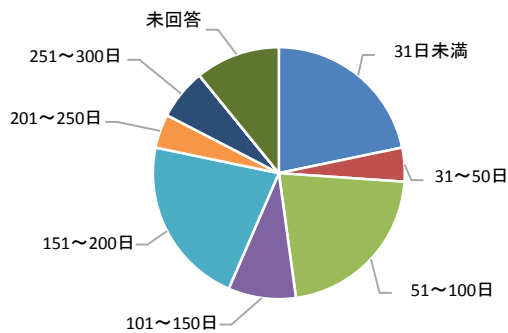
(3-5) 営業時期は、次のうちどちらに該当しますか。

区 分	回答数	比率
通年営業	33	72%
季節営業	6	13%
未回答	7	15%
計	46	100%



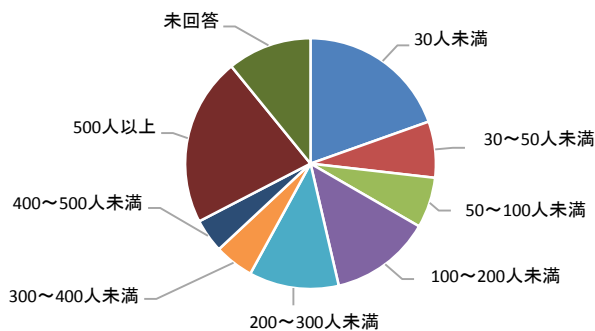
(3-6) あなたのアウトドア体験ガイド業における年間の稼働日数について記入してください。

区 分	回答数	比率
31日未満	10	22%
31～50日	2	4%
51～100日	10	22%
101～150日	4	9%
151～200日	10	22%
201～250日	2	4%
251～300日	3	7%
301日以上	0	0%
未回答	5	11%
計	46	100%



【質問7】 あなたの平成26年における取扱客数は何人ですか。

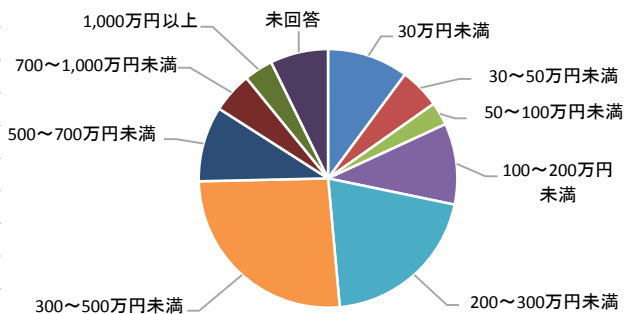
区 分	回答数	比率
30人未満	27	20%
30～50人未満	10	7%
50～100人未満	9	7%
100～200人未満	18	13%
200～300人未満	16	12%
300～400人未満	7	5%
400～500人未満	6	4%
500人以上	30	22%
未回答	15	11%
計	138	100%



【質問8】 あなたの収入についてお伺いします。

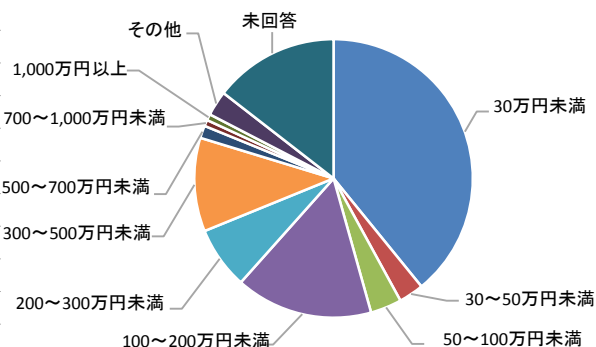
(1) あなたの平成26年における年収はいくらですか。

区 分	回答数	比率
30万円未満	14	10%
30～50万円未満	7	5%
50～100万円未満	4	3%
100～200万円未満	14	10%
200～300万円未満	28	20%
300～500万円未満	36	26%
500～700万円未満	13	9%
700～1,000万円未満	7	5%
1,000万円以上	5	4%
未回答	10	7%
計	138	100%



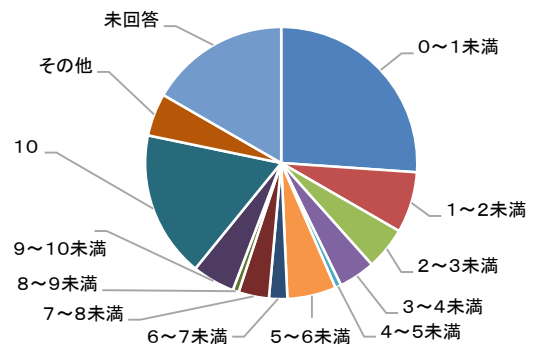
(2) (1)のうち、アウトドア体験ガイド業における収入は概ねいくらか、記入してください。

区 分	回答数	比率
30万円未満	54	39%
30～50万円未満	4	3%
50～100万円未満	5	4%
100～200万円未満	22	16%
200～300万円未満	10	7%
300～500万円未満	15	11%
500～700万円未満	2	1%
700～1,000万円未満	1	1%
1,000万円以上	1	1%
その他	4	3%
未回答	20	14%
計	138	100%



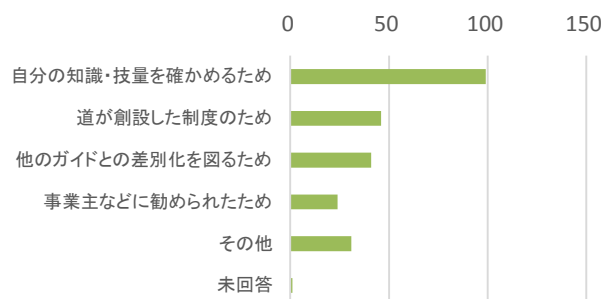
(3) (1)のうち、アウトドア体験ガイド業における収入は、概ね何割か、記入してください。

区 分	回答数	比率
0～1未満	36	26%
1～2未満	10	7%
2～3未満	7	5%
3～4未満	6	4%
4～5未満	1	1%
5～6未満	8	6%
6～7未満	3	2%
7～8未満	5	4%
8～9未満	1	1%
9～10未満	7	5%
10	24	17%
その他	7	5%
未回答	23	17%
計	138	100%



【質問9】 あなたが北海道アウトドアガイド資格を取得した動機は何ですか。(複数回答可)

区 分	回答数	比率
自分の知識・技量を確かめるため	99	41%
道が創設した制度のため	46	19%
他のガイドとの差別化を図るため	41	17%
事業主などに勧められたため	24	10%
その他	31	13%
未回答	1	0%
計	242	100%

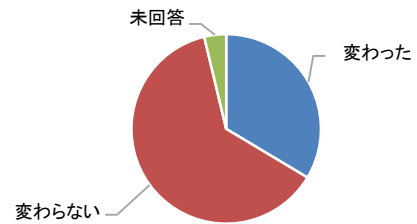


【その他の内容】

内 容	回答数
お客様の信頼を得ることにつながるため	2
保険加入のため	2
ガイド間のネットワークづくり	2
仲間を増やしたいため	1
資格がないよりはマシだと思ったから	1
資格は大切なので、必要であればいつでも使える	1
ひとつくらい取ってみようかなという感じ	1
地元の活性化・自然保護意識の向上	1
創設時にかかわったため	1
すばらしい北海道の自然を多くの人に理解していただくため	1
一緒に自然を楽しんでいた仲間に勧められた	1
信用度の見える一定の基準として	1
将来、その分野での仕事をしたいと考えている	1
事業主になるため	1
アウトドアガイドの存在を知り、やってみたいと思った。	1
低迷し衰退する市の経済状況に、観光産業で活気を取り戻せるかもしれないと感じた	1
資格がないとガイドできなくなるかもしれないという心配があったため	1
仲間と安全な登山をするため	1
ガイドになりたかった	1
アピールできる	1
北海道のレベルアップのため	1
社会性地位向上	1
自分のステイタスを高めるため	1
この資格なしでは、旅行会社に相手にされないかもと思ったので	1
対外的な目安	1
2020年～移住をして(道外の間人である)生計の一環として	1
退職後の仕事に役立てられればと思ったため	1
山岳ガイドになりたかったため	1
自然を好きになる人を増やすため	1
資格制度に共感したから	1
計	33

【質問10】 北海道アウトドアガイド資格の取得前と比較し、資格取得の後に何か変わりましたか。変わった場合は、その事項(例:利用客数増、所得増等)を記入してください。

区 分	回答数	比率
変わった	45	34%
変わらない	84	63%
未回答	5	4%
計	134	100%

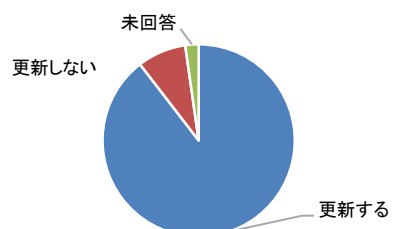


【変わった事項】

内 容	回答数
利用客の信頼が高まった	6
責任感・自覚・自信が高まった	4
自分の意識が変わった	2
自分自身のモチベーションが上がった。	1
利用客数増もあるし、グループ活動において信頼・信用につながり仲間が増えた	1
人脈、スキルアップ、自信	1
利用客の満足度を上げるための工夫 リスクに対する意識	1
自分の心構え	1
有資格者が気づく事で客に安心感を与える。体験プログラムをPRするときに有資格者がいることで安全性等を強調できる。	1
接客姿勢	1
旅行者からの仕事が増えた	1
お客様に対し、自信を持って堂々と案内しようという心構えが持てたこと	1
資格取得したからではなく、団体に所属したことで客数。所得が増加した。	1
試験が近くなると受験者の案内や質問が増えるようになった。	1
お客様との対話内容の充実	1
他の資格を取得しているガイドさんとの関係が良くなった。	1
更なる知識技術の向上心ができた。リスクマネジメントに対する準備・装備の充実	1
個人山行に同行してくれる友人が増えた。	1
利用客数増	1
接客の範囲が広がった	1
リスク管理の向上	1
自分の知識、技術	1
安全意識の向上	1
安全安心登山を実施するにあたって行動が慎重になった。リスクマネジメントについてよく考えるようになった。	1
活動範囲拡大、利用客数増	1
広報されやすくなった。海外の団体にライセンスは？ときかれた時に活用できた。	1
安全に対する意識・ガイドとしての自覚、言動、態度等の精神面	1
損害賠償保険に入れるようになった	1
安全意識の向上	1
給料が上がった	1
旅行会社、行政との関わり	1
仕事もらう前に資格をもっているかどうか聞かれた。	1
知識を学ぶことにより、お客様とのコミュニケーションがふえた。	1
講習の度に自ら学ばなくてはならず、大いに感化されている。	1
未回答	2
計	45

【質問11】 現在取得している北海道アウトドアガイド資格が更新時期を迎えたとき、あなたは更新しますか。更新しない場合は、その理由を記入してください。

区 分	回答数	比率
更新する	120	90%
更新しない	11	8%
未回答	3	2%
計	134	100%

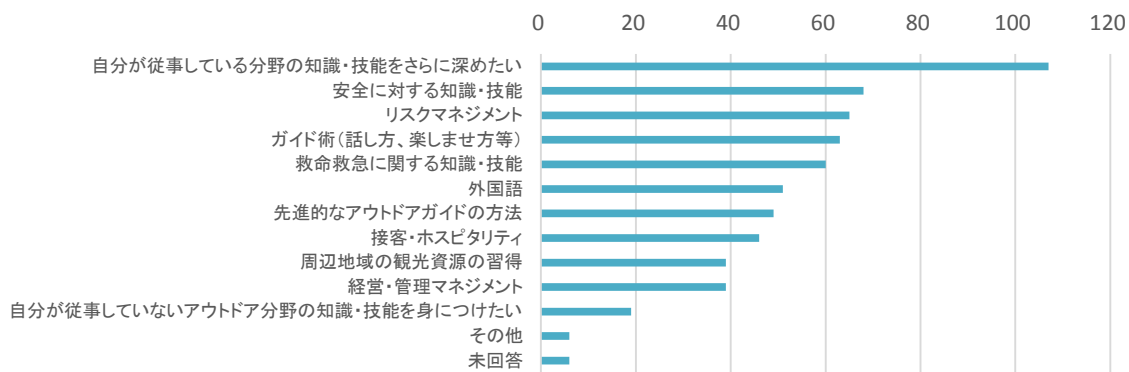


【更新しない理由】

理 由	回答数
検討中(メリットが少ない。あまり必要性を感じない。)	2
転職し、本州へ転出するため。更新にかかるコストに見合うメリットがないため。	1
この資格を知っている人がいないので、集客に繋がらない。	1
高齢のため。	1
更新したが、道外にいるため講習を受けられない。	1
必要を感じない。	1
義務化された更新時講習の内容に不満。旅費、講習料他、費用がかかり過ぎる。	1
何もメリットが無い。	1
高すぎる。割に合わなくなった。	1
未回答	1
計	11

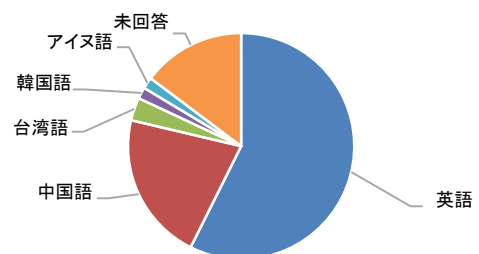
【質問12】 あなたが、現在、アウトドアガイドとして、どのような知識・スキルを身につけたいと思っていますか。(複数回答可)

区 分	回答数	比率
自分が従事している分野の知識・技能をさらに深めたい	107	17%
安全に対する知識・技能	68	11%
リスクマネジメント	65	11%
ガイド術(話し方、楽しませ方等)	63	10%
救命救急に関する知識・技能	60	10%
外国語	51	8%
先進的なアウトドアガイドの方法	49	8%
接客・ホスピタリティ	46	7%
周辺地域の観光資源の習得	39	6%
経営・管理マネジメント	39	6%
自分が従事していないアウトドア分野の知識・技能を身につけたい	19	3%
その他	6	1%
未回答	6	1%
計	618	100%



【外国語の内訳】

言 語	回答数	比率
英語	35	57%
中国語	13	21%
台湾語	2	3%
韓国語	1	2%
アイヌ語	1	2%
未回答	9	15%
計	61	100%



【その他の内訳】

内 容	回答数
仲間を増やし若い人を育てたい。	1
団体から独立して経営するためのノウハウ	1
野外活動をするための健康維持方法 ガイド個人、ゲスト準備運動	1
気象予報・植物や樹木に関する知識	1
弁護士や保険会社とのネットワーク	1
アイヌ、気象	1
計	6

【質問13】 あなたは、どのような研修制度があったらよいと思いますか。(社内、社外)

(社内)

内 訳	回答数
リスクマネジメント	6
接客スキル	6
救急法、救急救命	3
英会話、外国語	3
特になし	3
外部講師	2
専門分野の知識の習得	2
救命救急、安全、リスクマネジメント(ヒグマ対応含む)	1
ホスピタリティ・ガイディングともに均一な品質のものを提供できるためのスキルアップ研修	1
校内研修	1
分野別のスキルアップのための講習	1
話し方のコツ	1
救命救急に関する知識・技能、リスクマネジメント、先進的なアウトドアガイドの方法	1
お互いの長所、才能を引き出し合うための研修。	1
地域に特化した内容の研修会	1
他の事業所でのインターンシップ。1～2週間程度。	1
様々な分野の学習会、語学	1
自然全般、アイヌ文化	1
山岳地帯での救急救命講習	1
新企画づくり	1
従事分野の知識・技能、救急救命、安全、接客・ホスピタリティ、ガイド術に対応する研修会	1
アウトドアガイドの方法	1
事故を想定した救助トレーニング	1
知識を深めるためガイド自身が勉強して社内の講習会などで互いに知識を共有する。	1
フィールド研修	1
安全に対する認識の意識 大切なこと	1
人材育成	1
研修を仕事と認めてほしい	1
実践	1
不明	1

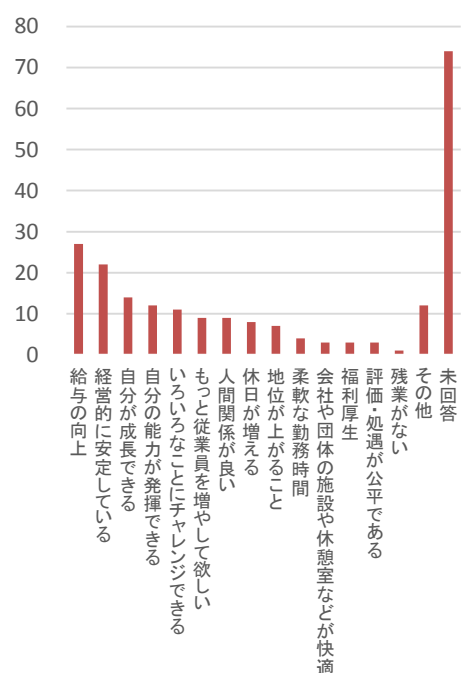
(社外)

内 訳	回答数
外国人客への対応	5
リスクマネジメント	4
アイヌの文化・歴史	3
情報交換・ガイド間の交流	3
接客・ホスピタリティ	3
他のガイドのガイドを受ける	3
外国語の研修	2
専門知識を深める研修	2
特になし	2
より技能を高めたり、レスキュー技能を高めるもの	1
コミュニケーション、セルフレスキュー	1
北海道の歴史を知るための研修or自然植物についての研修	1
保険・法律について	1
宗谷地域で開催される研修	1
先進的なアウトドアガイドの方法	1
外国語研修、アウトドアガイドマネジメント	1
実技トレーニング等	1
体験学習法、地域毎の自然情報の交換、活動報告会、観光学	1
海外研修	1
ガイド術(話術)を行って欲しい。登山技術等は、別の所で取得出来る。	1
他国のアウトドアガイドの状況を分野別に詳しく、また料金などガイド職業的地位等	1
ベテランガイドさんの実際の仕事を見学したい	1
先進地のガイド状況の視察による研修	1
ライセンス等に係る予備講習や講座を低料金で	1

内 訳	回答数
気象に関する知識を現地で、特に天候が急変する場合の判断など現場での研修を希望。	1
ガイド中遭遇したリスクについて情報の共有と対処法など。	1
事業に関する税務について、救命救急時の携帯用便利グッズの紹介案内・使用方法の研修	1
救命救急に関する知識・技能、リスクマネジメント、先進的なアウトドアガイドの方法	1
他の業種の方々と、共に社会を作る一員としてファシリテーション講座等を受講してみたい。	1
北海道各地特有の気象を学ぶ講座、国立公園などにおける自然保護への取組	1
乗馬調教	1
営業の方法(開業にあたって)※成功事例・失敗事例等	1
インバウンドに対する、簡易なテキストの作成(主に英語)	1
全く異なる地域(沖縄等)でのワークショップ	1
インバウンドの観光客に向けたアウトドアガイドの仕方など。英会話	1
専門家と一緒にいくフィールドワーク(自然関連)	1
ガイド資格取得の為の養成研修	1
世界的な救命救急資格の講習会	1
海外のガイドとの交流	1
弁護士や保険会社とのつながりがほしい	1
川での水難救助やロープワークの研修	1
アウトドアガイドの方法と交流	1
周辺地域の観光資源の習得	1
色々な情報提供と個人が選んで受けたいと思えるような研修	1
他のアウトドア事業者との人事交流	1
日々社会的に変化しているので、その変化を連絡してもらえれば助かる	1
北海道大学・アイヌ語等	1
他のアウトドア体験事業所を見学して様々なやり方を見る。	1
先進的なアウトドアガイドの方法	1
フィールド研修	1
救命救急、安全に関する知識、技能、事故例とガイドの対応について。	1
植物ガイド術、レスキュー技術、雪崩の技術	1
実践的な救急措置方法、各種専門家からの専門的講義、実践	1
専門家の方による講義(最新のデータ)、マナー研修(航空会社等)	1
ガイドにとって3年に1回の更新時講習はつらいと思うが、良い研修になれば良い。	1
北海道アウトドアガイドの存在の広報活動、アウトドア業界に対する安全安心の認知度のアップ	1
不明	1

【質問14】(会社、団体へ所属している方へ)(複数回答可)
 あなたが、今所属している会社または団体に望むことは何ですか。

区 分	回答数	比率
給与の向上	27	12%
経営的に安定している	22	10%
自分が成長できる	14	6%
自分の能力が発揮できる	12	5%
いろいろなことにチャレンジできる	11	5%
もっと従業員を増やして欲しい	9	4%
人間関係が良い	9	4%
休日が增える	8	4%
地位が上がる	7	3%
柔軟な勤務時間	4	2%
会社や団体の施設や休憩室などが快適	3	1%
福利厚生	3	1%
評価・処遇が公平である	3	1%
残業がない	1	0%
その他	12	5%
未回答	74	34%
計	219	100%



【その他の内訳】

内 容	回答数
必要に応じ年数回研修を実施されている	1
若い人(後継者)を増やすための工夫	1
観光客を誘致する努力をすべき	1
スタッフ全体のレベルアップ(平準化)	1
安全で質のよいガイドをめざす今の方向性でよい	1
私は主婦のため、忙しい時だけ手伝っている	1
仲間なので人間関係にあまり問題はない	1
特になし	3
未回答	2
計	12

2 現行の北海道アウトドア資格制度の課題、北海道のアウトドア業界の発展に向けての要望や意見などについて、ご自由にお書きください。

要 望 ・ 意 見
<p>主に、フライフィッシング(釣り)のガイドをしています。本州、海外の釣り、とくにフライフィッシングのガイドの需要が高い。ゲスト1人を相手に、3日～10日のガイドです。月に受けられるゲストは5～8人程度。北海道の釣りのガイドがまだまだ少ないこと、そして、海外(アジアにすむ欧米人や、オーストラリア、ニュージーランド)への情報発信は、皆無。それでも問い合わせが多く、手がまわりません。釣りは、フィールドあって、魚がいての仕事なので、なかなか参入するガイドがおらず、英語でHPを作っている個人もほぼほぼいません。アメリカ、カナダ、ニュージーランドでフィッシングロッジ、ハンティングロッジは普通にあり、余暇の楽しみ方、自然への接し方は海外の方が先進的に思う。質の高い個人向けのサービスとその対価として支払われるガイド業、夫婦+子2人の小さいガイド&ロッジですが、まだまだ、道内には少なく、可能性を感じます。ガイドが増えフィールドを守り、ゲストを守る。子供を作り、税金を納め、地域に入ること。北海道のガイド業はまだまだ職業として確立されていないと思う。インバウンドや外貨と騒がれる時だけに、お金の落としどころを見極めそれが循環する仕組みを作ることに、ガイド業は重要なポジションにあると思います。</p>
<p>自然ガイドの資格取得の次のシーズンに病気になり思うような活動・仕事ができいていません。資格があるということを経験のもとにしながら自分にできる部分をお客様と一緒に楽しんでいます。</p>
<p>アウトドアガイド資格を営業のために取得した人間ばかりでないことを意識してほしい。市民登山、学校登山や観察会にボランティアとして協力するために資格取得した者も自分を含めているはずである。営業会社やガイドの妨害や迷惑・邪魔にならない範囲で、アウトドアの裾野を広げるボランティアガイドが存在してもいいはずである。そのため、スキルアップ、リスクマネジメント、ガイド術の研鑽に努めている心算である。確実に市民行事、学校行事に全て営業会社やガイドが関与していないはずで、その隙間を埋めるボランティアガイドは必要とされているはずである。</p>
<p>資格を持つアウトドアガイドを観光業界における品質の高い商品と位置付け、ブランド化をすすめる。北海道には質が高く信頼のおけるガイドがいることをアピールし、他の地域や道内の無資格のガイドとの差別化を図る。ブランド化のために、</p> <ol style="list-style-type: none"> ①名称の変更。北海道アウトドアガイドの〇〇分野資格認定という使いにくい表現から、北海道自然ガイド、北海道カヌーガイドのように職業を指す名称に改める。資格のないガイドはこの名称を使えないようにして差別化する。また、英語名で表記したものをつくる。 ②身分証の義務化。ガイドを行う場合には、身分証の提示、携帯を義務化する。旅行会社や観光客に身分証の確認をすすめる。 ③北海道認定マークの周知。ガイドのマークを旅行業界や国内、国外からの旅行者に周知し、雇ったガイドに資格があることを確認してもらう。北海道のホームページで道の認定マークを検索してもアウトドアガイドのマークは出てこなかった。 ④ガイドのPR。北海道の自然、体験ツアーなどを照会するポスター、イベント、ホームページ等にガイドマークやガイド制度、認定ガイドが活躍していることを紹介する。 ⑤ガイドの差別化。認定ガイド、認定ガイドのいる事業所とそうでないところの差別化を図る。北海道のホームページへの掲載は認定ガイドのいる事業所だけに。観光や知識、スキルなどの有益な情報を優先的に認定ガイドに提供する。

要望・意見

試験会場が札幌・釧路に片寄っており、資格取得までにかかる日数も多すぎるため、宗谷から受験するにはコストが高すぎる。それに対するメリットが全然ない。研修なども近くでも旭川でしか開催されず、時間・旅費的に参加が不可能であるので改善してほしい。北海道、特に公共交通機関が著しく不便な地域では、旅客運送を伴う自然ガイドを実施せざるをえず、法的な問題をクリアしないことには発展は望めない。その点のサポートをしっかりと行っていただきたい。観光局の担当の方が各地で実施されているガイドに直接出向いて、現場の状況を体験し、生の意見を直接聞く必要があると考えております。

アウトドア資格を取得するメリットを感じられない。資格の有無で差別化をはかれるような内容がないなら資格制度はつぶれると思う。というより無駄な金だと思うのでつぶれた方が良く。そうならないためにもぜひ実利のある内容を求めます。

現主事業(委託事業の団体職員)が有期雇用という事情及び好きな自然系分野での仕事をしたいため資格を取得しました。本業の就労先の許可をもらって、副業としてガイドの仕事をしています(個人事業)。上記から、無回答の部分があります。ご了承くださいませ。

資格認定分野の件ですが、自然観察と夏山登山は重複する分野も多いことから、統一することはできないでしょうか。夏山登山の範囲の線引きが課題となるかと思いますが、日帰り、登山道利用、歩行距離、人数などを基準に、ランク上の夏山と、自然観察を含めたその下位の夏山に分化するのは難しいでしょうか？

<課題>アウトドア資格を取得しても、営業や就職にはつながりません。資格保有者の活躍こそが、安全で安心なアウトドア体験を提供できるのですから、収入を得られる制度(客の紹介、仕事の斡旋)の整備が必要であると考えます。

<発展>ガイドが同行しなければならぬ制度を整備することにより業界は発展すると考えます(特に登山)。

<さらに>ガイドを必要としている客がガイドを頼めるシステムの整備も必要。

私は日頃思っていることは制度ができて早や13年経ってきましたが、あまりにもこの制度の認知度の低さにビックリすることです。観光業界、アウトドアを行っている人達、報道関係の人達においても低すぎると思います。観光北海道においてアウトドアに対しては安全安心に関しては力の入れ方が違うのだと言うことを知らせてもらいたいと思います。もちろん私もそれを行う者として努力して行かなければならないことはもちろんのことです。ここで私の提案なんですけど、バッチ、ワッペン、腕章などをつくったらいかがでしょう。無償でなくても有償でいいと思うのです。ガイドを行う時に付けて人目に触れることは大いにアピールにつながるとは思います。それと他のガイドとの差別化にもなると思います。今後は資格更新における講習の義務化は大変に良いことと思います。人の生命に関する仕事ですので当然のことと思います。その時には法令に対する変更、業界の動き、北海道に関する観光の動きなど教えてもらえたら大変に勉強になると思うし、レベルアップにつながるとは思います。その意味で一昨年に業務センターができ、リスクマネジメントの講演会が行われ、参加したことは私に取りましては大変に勉強になり役に立っております。業務センターができたことで資格の手続等も大変スムーズになり助かります。また、この資格制度に関心のある人にも大変に良いことと思います。最後になりましたが今年もよろしく願いいたします。

北海道マスターガイド制度の認定について、一部見直しを希望します。マスターガイド認定の基準の(4)にアウトドアガイドやアウトドア関係者からの評価が高く、信頼も厚いこととありますが、自己申告ではなく、所属している団体等の推薦状を付加するべきです。良識のある判断を望みます。アウトドア業界発展のためには、質の良いガイドの育成を図ることが大事かと思っております。

要 望 ・ 意 見

- ①現在日本体育協会が運営管理するスポーツ指導員養成の競技種目は59種。
- ②59種の指導員及び上級指導者は全国に約96千人、北海道には約5千人。
- ③その59種に北海道アウトドアガイド資格制度と重複するのは「山岳」のみで、馬術とカヌーが似て非なるもの。
- ④山岳をとりまとめているのは日本山岳協会、北海道には北海道山岳連盟が存在し安全・安心登山を普及させる為に指導員養成を行っている。
- ⑤しかし、残念ながら道山岳連盟所属の指導員の資格受領後の更新時講習は不十分である。
- ⑥その他に山岳に関してはクライアントから対価を貰いガイドを生業にすることを認可する日本山岳ガイド協会があり、北海道にはその傘下の北海道山岳ガイド協会が存在する。
- ⑦北海道山岳ガイド協会においては規定にのっとり、入会時の資格審査と3年に1回の更新時講習が厳密に行われている。
- ⑧山岳の技術・知識等は北海道山岳ガイド協会、北海道山岳連盟がそれぞれ仕組みを設けて日々研鑽している。
- ⑨現状、北海道山岳連盟に所属しない多くの登山者が北海道アウトドアガイドの資格を取得した後、数人が北海道山岳ガイド協会の門を叩いている。
- ⑩例外的に北海道山岳連盟に所属している会員も北海道アウトドアガイドの資格取得に参加している。
- ⑪以上、北海道には「北海道山岳ガイド協会」、「北海道山岳連盟」と「北海道アウトドア資格制度」の3つが存在する。
- ⑫しかし、北海道アウトドアガイドの山岳部門は他の四部門(自然・馬・カヌー・ラフティング)に比べて上記2団体があるため、先細りが否めない。
- ⑬そして山岳に限定すると、先細りを食い止める手立てが見つからない。
- ⑭食い止めるために、他の山岳団体がやっていないマスコミ狙いの行事等を道庁主管でやりたいものだ。
- ⑮道知事の【エンブレム】、認定証を使ってアウトドア用品の【割引制度】等皆で考えたい。さて、北海道アウトドア資格制度の仕組みはどこに位置し、どこに向かうのか。私はこの制度の山岳に関しては北海道知事が安全・安心登山をする教育の仕組みであると認識する。

アウトドア資格制度があること、より良いものを目指す取組があることは、良いことと思う。アウトドアガイドは必要性があり需要もあるが、これだけで生活できるのはほんの一部のように見える。職業として魅力があっても若い人にとっては厳しく、周囲を見ても多くが兼業者(年金生活者含む)である。年配であっても、知識が豊富で味のあるガイドをする人をたくさん知っているが、若い人が育たない、育ちにくい商業は先細りと思える。マスターガイドを活用する方法は考えられないだろうか。なかなか良い考えは思いつかないが。

他の分野と同じくくりの制度や研修には必要を感じません。それぞれの分野にとって必要な知識やスキルは違うと思う。現状の制度であり続けるなら更新しません。お金のムダと思うから。

自分は組織の営業窓口も体験し、旅行エージェント本社や仕入れにも営業に歩きました。個人としては営業を依頼する側がリスクや現場対応に対しての不安も理解できます。結局、総合的な体験行動を売らないと個人事業は成立しないと思う。組織に所属し、対応可能な案件を拾うしかないのではと考えています。

ガイドとして自立できるレベルの資格制度としてほしい。レベルアップ また、資格の意義をもっともっと発信してほしい。

インバウンドが増加の傾向にありますが、外国語に対応できない場面が多く断っていることがあります。最低でも必要な文例(スピーチ)などの研修があればありがたいです。

更新において、講習受講が必須になったが、道外に住んでいる者にとっては更新が受けられない。苦労して取得し、更新料を払いつづけてきたが、ムダになってしまうことが悔やまれる。

現在資格を持っていて、他業種に務めている場合、休眠資格として更新料金を講習を免除して、資格を使用するガイドに務めた場合に復活する制度にしてほしい。持っているだけでは、メリットを享受できず、更新しない人が多く出ている。

資格取得まで独学となるので、これから取得する方は大変です。できれば実技、実地訓練を含む講習会を増やせば、一定の技術、知識をもつガイドの育成に役立つと思います。

ガイド資格者のワッペンやエンブレム等があると良い！ガイドを職業としている人達ばかりではなく、現在サラリーマンで、自己の知識・技術向上のために勉強している人達にも対象とした取組をしてほしい。(将来、ガイド業を考えている人、山岳写真家やライターのみで生計を立てている人もいる)

道内の他のガイドさんと交流できる機会が少ない。お互いの情報交換の場を設けてほしい。

要望・意見

①フリーのガイドやガイド業をしていない有資者を協力・応援などの要請に対応するシステムをつくって、ガイドの補助をしながら、ガイド経験を積み上げていけると良いと思います。

②現場で北海道アウトドア資格ガイドと判明できるバッジや腕章みたいなものを作って身につけてもらおうと話しかけやすいし、情報交換もしやすい。

要望というほどのものではありませんが、ガイド資格認定者が現在どれくらいいて、どんな活動をしているか、現在、北海道でどれくらいのガイド活動がされていて、その中のどれくらいのガイドが、この制度の認定者なのか、などを知りたい。北海道のアウトドア活動や、アウトドアガイド活動に対してこの道の制度がどういう影響なり効果をもたらしたか知りたい。

安全管理や、技法、技術等は、世界的に日々更新されています。常に先進的な技術の修得が必要。また、他のガイド資格との基準の統一化など。

ガイド能力向上のため定期の研修の強化

制度が一方向的にコロコロ変わりが一貫性が薄れている。

更新時講習の義務化や有効期限後の更新など改悪ではないか、業務センターなどの金儲けの手段に使われてはいないのか。

資格試験や更新時講習の日程が決まるのが遅すぎる。年頭か年度はじめに年間の日程が発表されるべきで、受験者や受講者は予定が立てづらい。

アウトドア資格の必要性は地域によってばらつきがあり、恩恵が受けられない地域の資格者が講習実施都市まで出向かなければならないのは負担が大きすぎる。森林インストラクターは5年の有効期間です。

日本国内でもめずらしく、公的機関の認定した資格なのに、影響力やメリットがほぼ感じられないところは改善してほしい。今までそれでお客様が来られたことはない。

研修会や講習会などがほぼないのでやってほしい。

検定システムが不透明。検定するインストラクターになりたい場合の道筋がない。検定内容が薄い。

知名度が低い。HPもいまいちよくわからない。発信も遅い。

更なる顧客に対するPR(知事自らもっとマスコミにPRしてほしい)

羊蹄山のガイド添乗の山岳遭難で貴い命が失われたことを契機に、北海道は平成14年に全国に先駆けて独自のアウトドア資格制度を取り入れてから10数年経ちました。以来、アウトドアガイド試験実施期間等の変遷を経て、アウトドアガイド資格の認知とその必要性は道民に徐々に浸透してきていると思います。団体旅行から体験を主とする個人旅行の増加対応や指導策の一つとして、楽しく安全に旅行してもらうためには、リスクマネジメントに長け、おもてなしの心配りができるアウトドアガイドの必要性はさらに高まっていくものと考えます。平成14年にガイド資格を取得した者として、救急救命講習の受講のみならず、今年度からガイドの資質向上などを旨とする資格更新時の講習受講の義務化はあって当然であり、賛同するところです。ガイド資格は取得して終了ではなく、リスクマネジメントなどについて人の話を聴き、研究し、さまざまなことについて日々研鑽を重ねながらガイドの資質を高めなければならないものです。ガイド自身を含む顧客の安全対策・安全確保は何にもまして最優先されるべきと思います。これからも死亡事故や山岳遭難を起こさないためにもアウトドア資格制度の継続を望むとともに、道内外へ積極的なPRを重ねるなど、更なる充実・発展を望みます。北海道経済部観光局や北海道体験推進協議会へ今後のご期待を申し上げるとともに、私も自己研鑽に勤めてまいります。

更新料等が高い。更新期間ももう少し長くても良いと思う。

やはり給与の低さは多くの場所で問題になっていると思う。それがゆえに新人が入らず勤務時間、休日不公平になっている。

私は釧路川下流域(釧路湿原)でガイドをしています。6, 7, 8, 9月にお客様が集中しますが、他の時期もとても素敵です。3, 4, 5, 6月と野鳥ウォッチングや魚釣り、9, 10, 11, 12月も同様、野鳥ウォッチングと釣りを楽しめたい。又、1月、2月が、けあらし、霧氷、ダイヤモンドダストとても素敵な景色です。オールシーズン楽しめる川と思っています。自分のPRの仕方足りないのですが、PR次第で集客ができると信じています。北海道の魅力 オールシーズン楽しめる。皆知ればオールシーズン北海道へ足を運んでくれそうな気がします。

定期的なガイド研修(机上、実技)の開催があると良いと思います。

ガイド間の情報交換、交流の場があると良いと思います。

日本山岳ガイド協会等との技術レベルに関する研修等があると良いと思います。

要望・意見

北海道のガイド全員が資格保有者になるよう道庁、業務センター、全有資格ガイドが協力しあい、この制度を盛り上げていけたら良いと思う。ただ、決定が遅いため、盛り上がりそうで盛り上がらないのが現状だと思う。熱いうちにどんどん進めて行けば地域の有資格者ガイドも協力すると思うので、下の力で押し上げてこの制度を他の県などからうらやましがられる制度にしたい。

資格制度の必要性や有資格者と無資格者の差別化
ボランティアガイドから有償ガイドへの移行がスムーズになる方策
ガイドの地域的な片寄りがスキル格差を生む
ガイドを志す人の基礎づくりが大切では

若い人がレベルアップできるような研修を数多くすること【・分野に対する資質向上・救急・企業人として自覚、マネージメント申告、地域住民としての自覚・自己プロモーションの仕方】
賠償保険をしっかりする←道が世話を焼いてください。事故対策、安心安全の北海道観光の downstream 観光施設の充実【・トイレ・案内板、道標・歩道の新設一年配者が自然で遊べない。いわゆるハイキング程度 自然の北海道とはいえ、山登り以外で歩けるところは案外と少ないのです。
資格制度のメリットを出さないと更新されない方も出ると思う。

ルールを守ってガイドしてほしい。北海道アウトドアガイド資格を持っている方はそんなことしていないと願いたい。

【試験方法の改善】、【マスターガイド制度の廃止】、【道はガイド利用普及のための積極的施策をとるべき】、【北海道推奨自然体験活動関連旅行事業者登録制度】、【北海道アウトドアガイドが共通で身につけるワッペン】の作成、配布】

研修を多くしてほしい。マンネリ化になりがちだ！

北海道アウトドアガイド資格制度は他の都府県からも注目されている制度ですので、持続的に発展してほしいと願っています。私は資格を取得できたことで、自信が深まりましたし、他の資格取得者とのつながりもでき、情報交換できました。次の世代の育成のためにもこのような公的な資格制度は必要と考えています。今後マスターガイドを目指し、後進の育成をしていければと思います。

更新時の経費の軽減・研究会の経費の軽減をお願いしたい。ボランティア的な活動が多いため。

若い世代が将来の職業としてやっていけるようにしなければいけない。アウトドアガイドの価値向上も地域発展(観光的)に紐付けして考えなければいけないので、どんどんメディア(テレビ等)を介してそれを一般の方に伝えていかなければならないと思う。※一般の方がアウトドアガイドのことに知る(気づく)必要がある。

講習費用をもっと安くしてほしい。

アウトドア資格制度に関するテキスト・講習・申請・その他、手数料などが高額すぎる。これから新規でガイドを目指す若者にとってはテキストをそろえるだけで1~2万かかり、すでにハードルが高い気がします。

資格取得者がメリットがあるように

道内の各市町村の観光客受入に携わる組織が、北海道アウトドア資格の必要性を認識すべきである。道内のアウトドア業者、及び各市町村の観光課については、法人個人を問わず北海道アウトドアガイド資格を有するガイドを1名以上配置し、安全性を確保することを義務づけるようにすべきでは。

ガイド資格保持者がいなければ立入禁止をするエリアがあっても良いと思います。

道内の各市町村の観光課及び観光協会又は体験観光を実施している組織に対し、北海道アウトドア資格者の配置を義務化したら良いのではないかと。

道内外、社内等においてガイドの存在意義が軽視されているのでは？アウトドアガイドの存在が野外活動において重要な役目を担っていることを道としてもっとアピールしても良いのではないかと。

アウトドア資格のステータスの向上。アウトドア資格制度が始まり10年以上になると思いますが、まだ認知度や価値が低いように思います。行政が先導してステータスの向上に努めていただけると助かります。特に資格保有者と無資格者の差別が必要だと思います。(メディアを利用したガイド事業者の紹介、旅行代理店への働きかけ等)

要望・意見

マスターガイドの資格が曖昧で妙な権威を与えるようなものであれば廃止すべき。12/10の札幌研修で講義の間、ずっと携帯でゲーム(パズドラ?)をやっている女性がいて、ひどいガイドもいるものだと思っていたらその方がマスターガイド(乗馬)と知って驚きました。この件は事務局にも伝えました。アウトドアガイド制度全体に不信感を抱くことになりかねないと思います。

私は現在アウトドアガイドをビジネスとしてやっておりません。ボランティアとして活動を始めたばかりの者です。過去の業務経験(経営管理含む。)から察して、アウトドア事業を取り巻く環境はまだ整っておらず事業をして運営していくには厳しい状況下にあります。環境を整える一つの手段として、・アウトドア事業の法的整備(条例等)、・認定ガイドの地位向上を図る。※地方公共団体初のアウトドア認定ガイドにもかかわらず認知度が低く一般人を始め、山岳会、自然観察団体、他認定ガイドの存在さえ知らない人が多く見受けられる。・地方公共団体等によるアピールの推進(メディア等の活用)、・インバウンド増加による対応策の検討(地方公共団体、企業、フリーランス等)※周遊観光型から体験観光型にシフトしてきている。

試験会場の偏り(地方の人でも受けやすいように、旭川など他の会場も検討していただきたい。)

試験内容→時代に合った道具を使用しての内容にしてほしい。

私は以前、福島県から来た女性をつれて十勝岳をガイドしている時のことです。カメラが趣味で写真展などで何度も表彰されている人ですが、下山途中で道脇のお花を写すため通路を1mほど離れて写真を撮っていました。そこに登山者20名ほどつれたガイドが通り、得意になってみんなの前で「そんな所に入ったらだめだよ」と言いました。そこにはガイドロープが有るわけでもなく、どこが通路かはっきりしないような場所です。私は、そのガイドが登る時から気になっていたのですが、金のピンが付いた長靴を履いていました。今はストックも金ピンをゴムのカバーをつけて使用することを指導されているのに、金ピンの付いた長靴はいて平然としているガイドに反論したい気持ちでしたが、ぐっと抑えました。たわいのないことかも知れませんが、ガイドなら人に注意する前に自分はどうか良く考えて言ってほしいものです。

さて、観光局はガイドの位置付けや、そのレベルをどのように考えているか疑問な点があります。資格を更新には、救急法をそれぞれ勝手に受けて、その証明書をもって更新するということですが、果たして、その程度で良いのでしょうか？ガイド資格にはいろいろ種類があり、それぞれ危険が及ぶ種類は多種多様です。資格別に専門的な講習を行い、マナーやモラルも勉強する必要があるのではないのでしょうか。

資格更新に伴う講習会が少なすぎると思う。資格とは安全や安心の目安。あるとないでは信用度が違うため、更新には資格保持者全員に対して責任を持って体制を構築すべきであり、北海道の自然、山々は本州の整備された山小屋や環境と違い厳しい。一つ間違えばトムラウシ山での事故・惨劇が再度起こらないとは限らない。北海道のガイドの不正やガイドが必須であるためにも、資格を見送るガイドが発生しないよう慎重に体制を整えてほしいし、もっともっと北海道のガイドPR、宣伝をしてほしい。

若い人が頑張れる環境作りに皆が努力してほしい。

この資格を持っていても何も変わらないのが現実です。資格で収入が増えると良いのですが。この制度は何のために作ったのでしょうか？私はガイドで生活していませんが、若い人達はバイトしながらです。こんな不安定な生活では、ガイドは育たないでしょう。若い人達はこれからの北海道観光に必要な存在です。夏場は非常に忙しいですが、冬場は半減以下です。私は夏場以上に素晴らしく楽しいと思っていますが、一度来られたお客様は冬場の楽しさを覚えるとりピーターで来てくれます。道、自治体はもっともっと冬の北海道をアピールしてほしいです。当然、ガイド自身のスキルアップをしなければなりません。

カナダの州立公園内では、ガイドの服装や大きなワッペン等も目立っていたし、見た目も格好良く、ガイド自身もプライドを持った表情に見受けた。現場でのガイド中には、道外など他の地域からのツアーガイドとの特色化を示すものとして、北海道アウトドア資格者がステイタスの高さを表す、腕章や目立つワッペン、帽子、資格者証等の着用を奨励又は義務づけるほどの制度があってもよいのではないか。現行の有資格者や、これから資格を取得しようとする者にとっても励みにもなるのではないか。

続けて更新しております。現在は自分のための資格取得になっています。年齢と共に体力的な面に於いても日赤の講習を受けるのも大変になりましたが、苦勞して、いただいた資格なので大事にしたいと思います。※いつの日かは、この資格もなくなりますガイドの資格があったという証明書のようなものをいただけないかなと思います。(もちろん実際には使えない証明ですが人生の一ページになりますので。

要望・意見

旅行業者にガイド資格を条件にするように道も強力に推進すべきである。

アウトドアが観光事業拡大に繋がるので道にもっと大事にしてほしいです。
ガイドのための支援策を考えても良いと思います。

有効期限3年は短いのでは？

現行の「誰でも自由に出入りできる自然」から、諸外国のように「ガイドがなければ立ち入ることのできない自然」への転換が必要に思う。また、無資格者によるガイド類似行為、及び有資格者による、無料ガイド(自分の趣味の延長上の登山など)の蔓延を防止することが大切ではないか。

職業ガイドの仕事を守ることも重要なので、有資格者の優遇処置や、社会における地位の向上なども必要不可欠であると思う。

- ・無資格でも有資格者でもガイドをしてあまり関係のないところが問題
- ・旅行者への働きかけ、世間の広報不足があると思う。
- ・ガイド専業で家庭を持つのは大変で若い人がなかなか育たない。体を張ってがんばってやっている割には収入の少なさと不規則な生活になる職業である。自信の装備品のみでなく客の不備な装備を補う為の装備も備えておかななくてはならないので出費がかさむ。
- ・大雪山系は登山道の荒れ方がひどく毎年補修に工夫をこらし費用もかかりボランティアでやっている部分や業者を入れてやっている部分など、いろいろで自然保護の観点からもう何らかの手を打たないと世界遺産登録などともない話になってくる。
- ・ツアーの集団登山入山を制限する。予備日を計画に組み込み、雨中の歩行を制限する。
- ・必ずガイドをつける。
- ・入山料をとる。
- ・バックカントリースキーでの事故が心配されているが、旭岳ロープウェイでも8割が外人スキーヤー(2月・3月)で占められていて、ホワイトアウトや吹雪の中でもコース外を滑走している状況である。旭岳にはスキーパトロールは一人もいない。今後雪崩シーズンで事故は必ず起こると思われる。ロープウェイの会社はコース外を滑走しないよう看板は立ててはいるが全ての人が無視しているありさま。事故が起こっても責任は負いませんと言う表現はまずい。強力な指導力をどこが発揮すれば良いのか心配している。

・道がやっている資格という公的機関の資格は日本国内でもめずらしく、そこに魅力があるのにほぼ道内でも認知度も低く、メリットも感じられない。そこに道としては力を入れてほしい。

・それ以外のアウトドア資格団体との提携+技術提携

ガイド資格の知名度が上がること、ガイド資格の有効性が広く認識されるような施策を望みます。

更新、研修の内容が薄すぎる。

私は主となる収入が権利的な収入なので、ガイド業に時間や経済的な事は余裕を持って従事できていますが、若い子がガイドを目指したいとなった時、一人前になるまでの雇用が非常に難しいと今実感しています。市や国の機関でガイド養成の為の助成があったら良いと思います。これから若いガイドを養成していくための良い方法がありますか？

資格制度の充実登録、登録者の広報「マスター」の登録の厳格化とその利用
アウトドア業界の連携

アウトドア業界の中で、今後ガイド業界の値段の崩壊しないこと・・・

行政などが行う助成金、補助金がらみの団体などのメニューでお客様からの報酬なく、税金を使って、お客様は無料もしくは、1,000円などを値段設定をして川下りなどをしていることは、一般に営業している団体には、価格破壊で、太刀打ちできません。

今後、ガイドとしての地位確立のため、モチベーションを高めることが大切です。

要 望 ・ 意 見

道アウトドア資格管理団体 ガイドを専業、主業にしている人が関わっていないので、生活のためにガイドを行っている我々の考えが理解しているのかが不明です。

資格取得の技術が低いので、一定の登山を行った方々が取得できるし、一般登山者がステータスシンボリックに受験している傾向が強い。毎年受験者がそこそこいるのは、その方が受験するからだと思います。そのため、資格の品位が上がらない。

過去の受験者から、「道アウトドア資格検定員は、ガイドをしたことがあるの？(ガイド業を専業としているか?)」と言うのを聞きます。ガイド経験をあまり感じられない行為があるように聞きます。どのようなものでしょうか？

あまりにも、この業界で、道アウトドア資格が知られていない。もっと商業的に広告活動を行うのも良いかと、雑誌や新聞に記事の投稿など。

現在、無資格でもガイド業を行っている方々が多いです。格差を付けるため、道アウトドア資格のスキルを上げ、資格の品位向上が必要と感じます。

もっともっと、この資格保持の優位性を設定すべき。そのためには、各部局の垣根を越えた協議会を作るべき。例えば、学校教育の自然体験活動指導者との連動、振興局産業振興部が進めているフットパスとの連動等、北海道が持っているガイド業に関わる許認可権を優先的に与えろとか、行政の中の横のつながりを作ることが、生き残り戦略だと思いますよ。

取得したあとのフォローがないので、よく分からないままになっている。

実際、日本山岳ガイド協会資格からの免除申請だったので北海道アウトドア資格に魅力を感じているわけではない。

北海道山岳ガイド協会からの情報にたよっている。

私自身をみがかくの講習会があるのはありがたいです。

また、大雪山国立公園のパークボランティアをしていますので、いつも仕事で山に入っています。ガイドの技術がとても助かっています。